

病害虫防除技術情報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

トマトキバガによる被害の確認と対策

1 情報の内容

令和6年2～3月において、県東部及び県西部のハウス内トマトにおいて、トマトキバガ幼虫による食害痕が確認された。本県では、令和5年10月6日にフェロモントラップによる成虫の誘殺が確認されているが（令和5年10月19日発出の病害虫発生予察特殊報より）、本種幼虫による農作物の被害が確認されたのは初めてである。今後、被害が拡大する可能性があるため、適切な防除対策に努める。

2 形態

- (1) 成虫は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長約5mm、開張約10mm）。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一樣に淡黒褐色である（写真1）。
- (2) 幼虫は、終齢で体長約8mm。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の後方に細い黒色横帯がある（写真2）。

3 生態と被害

- (1) 1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
- (2) 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうちに平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。
- (3) トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する（写真3）。

【参考資料】



写真1 トマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ幼虫

写真3 トマト葉、果実の食痕
(飼育個体)

写真：「植物防疫所病害虫情報 No. 127 より・無断転写禁止」

4 防除対策

- (1) トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のほ場を見回り、成虫および被害葉・被害果実の早期発見に努める。
- (2) トマトキバガの発生が認められた場合は、5 防除薬剤や農薬登録情報提供システム（右二次元コード）を参考に薬剤を選定し、薬剤防除を行う。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。なお、現時点の登録作物はトマト、ミニトマトのみであるので注意する。
- (3) 被害葉や被害果実は、発見次第、速やかにほ場内から除去する。除去した被害葉や被害果実は、速やかに土中に深く埋設するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (4) ハウス内での発生が認められた場合、トマトキバガの地域への定着を防ぐため、栽培終了後は、ハウスを密閉した後、株を抜きとるなどして枯死させ、1か月以上かけてハウス内のトマトキバガを餓死させる。ハウス内の雑草は、トマトキバガの生育場所となるため密閉の際は、しっかり除草を行う。また、マルチ等の資材にも、蛹や成幼虫が付着している可能性があるため、使用した資材は、この期間が終了した後に搬出し、処分する。



5 防除薬剤

トマト

薬剤名 (成分名)	使用方法	使用時期	希釈倍数	使用量	本剤の 使用回数
コテツフロアブル (クロルフェナピル水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	3回以内
ゼンターリ顆粒水和剤 (BT水和剤)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	-
エスマルクDF (BT水和剤)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	-
サブリーナフロアブル (BT水和剤)	散布	発生初期収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	-
チューンアップ顆粒水和剤 (BT水和剤)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	-
アフーム乳剤 (エマメクチン安息香酸塩乳剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	5回以内
プレオフロアブル (ピリダリル水和剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	2回以内
アクセルフロアブル (メタフルミゾン水和剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	3回以内
プレバソンフロアブル5 (クロラントラニプロール水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	3回以内
	灌注	育苗期後半～定植当日	100倍	1株当り25ml	1回
フェニックス顆粒水和剤 (フルベンジアミド水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	2回以内
アニキ乳剤 (レピメクチン乳剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	3回以内
トルネードエースDF (インドキサカルブ水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	2回以内
ファイントリムDF (インドキサカルブ水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	2回以内
ディアナSC (スピネトラム水和剤)	散布	収穫前日まで	2500～5000倍	100～300L/10a	2回以内
ラディアントSC (スピネトラム水和剤)	散布	収穫前日まで	2500～5000倍	100～300L/10a	2回以内
アグリメック (アバメクチン乳剤)	散布	収穫前日まで	500～1000倍	100～300L/10a	3回以内
ダブルシューターSE (脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	2回以内
ベリマークSC (シアントラニプロール水和剤)	灌注	育苗期後半～定植当日	400株当り25ml	400株当り10～20L	1回
ベネビアOD (シアントラニプロール水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	3回以内
プリロッソ粒剤オメガ (シアントラニプロール粒剤)	株元散布	育苗期後半～定植時	-	2g/株	1回
グレーシア乳剤 (フルキサメタミド乳剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	2回以内
ヨーバルフロアブル (テトラニプロール水和剤)	散布	収穫前日まで	2500倍	100～300L/10a	3回以内

ミニトマト

薬剤名 (成分名)	使用方法	使用時期	希釈倍数	使用量	本剤の 使用回数
コテツフロアブル (クロルフェナピル水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	3回以内
ゼンターリ顆粒水和剤 (BT水和剤)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	-
エスマルクDF (BT水和剤)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	-
サブリーナフロアブル (BT水和剤)	散布	発生初期収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	-
チューンアップ顆粒水和剤 (BT水和剤)	散布	発生初期 但し、収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	-
アフーム乳剤 (エマメクチン安息香酸塩)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	5回以内
ブレオフロアブル (ピリダリル水和剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	2回以内
アクセルフロアブル (メタフルミゾン水和剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	3回以内
プレバソンフロアブル5 (クロラントラニプロール水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	3回以内
	灌注	育苗期後半～定植当日	100倍	1株当たり25ml	1回
フェニックス顆粒水和剤 (フルベンジアミド水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	2回以内
アニキ乳剤 (レピメクチン乳剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	3回以内
ディアナSC (スピネトラム水和剤)	散布	収穫前日まで	2500～5000倍	100～300L/10a	2回以内
ラディアントSC (スピネトラム水和剤)	散布	収穫前日まで	2500～5000倍	100～300L/10a	2回以内
ダブルシューターSE (脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤)	散布	収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	2回以内
ベリマークSC (シアントラニプロール水和剤)	灌注	育苗期後半～定植当日	400株当り25ml	400株当り10～20L	1回
ベネビアOD (シアントラニプロール水和剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	3回以内
プリロッソ粒剤オメガ (シアントラニプロール粒剤)	株元散布	育苗期後半～定植時	-	2g/株	1回
グレースシア乳剤 (フルキサメタミド乳剤)	散布	収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	2回以内
ヨーバルフロアブル (テトラニプロール水和剤)	散布	収穫前日まで	2500倍	100～300L/10a	3回以内

連絡先 農業研究所 病理昆虫課

TEL (076)429-5249 FAX (076)429-7974